

風によって、羽ばたく。

[2019年・新春]



NIKI HEARTY HOSPITAL
広報誌 Vol.29

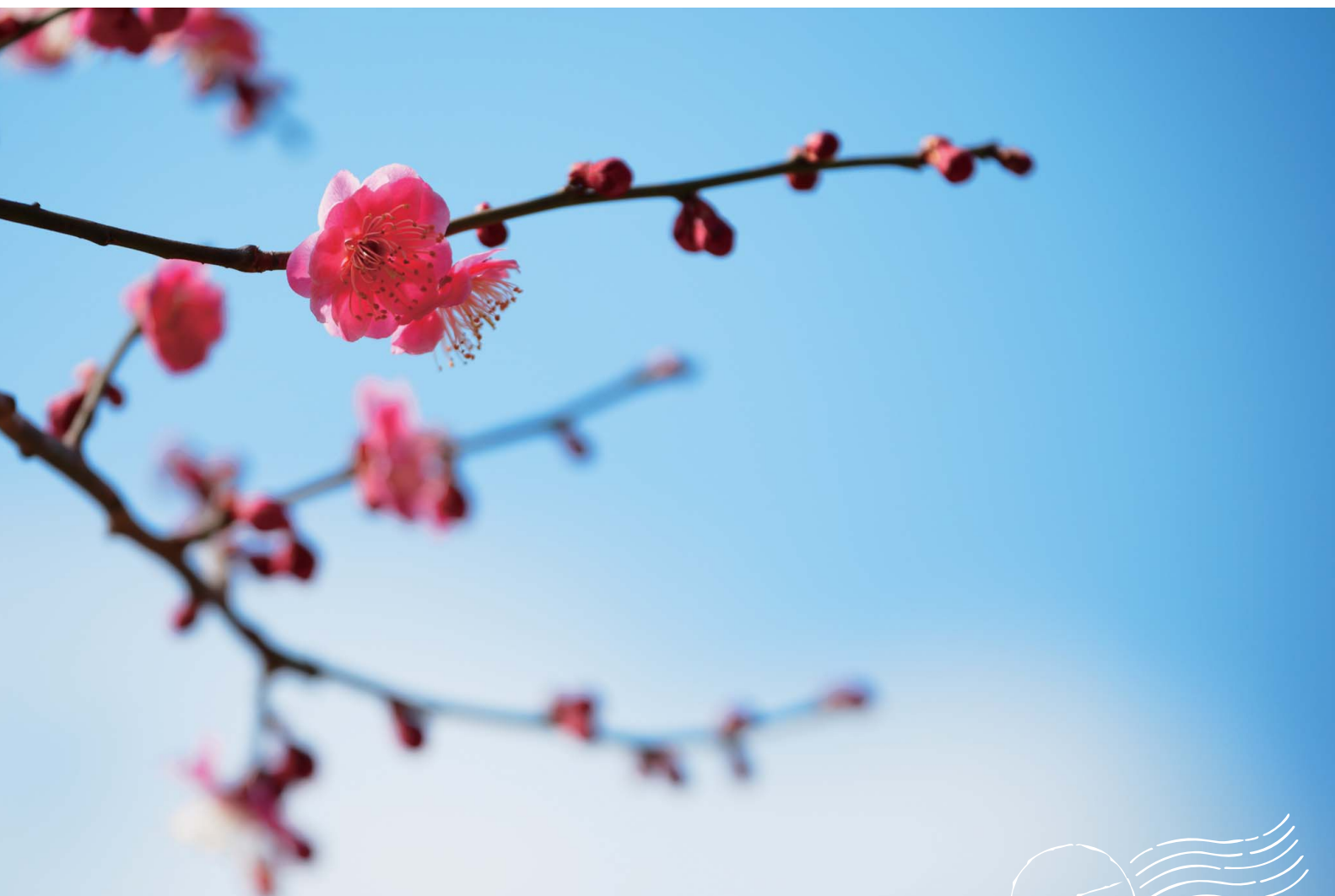
Take Free.
ご自由にお持ちください

心に安らぎのそよ風を。

<http://www.niki-hp.or.jp>



そよ風のてがみ



理事長あいさつ

できごと

部門紹介

かんたんレシピ

[鶏肉のカレー南蛮漬け]

特集

時代の移り変わり

— 当院の今昔とこれから



● 外来診療のご案内

- ・ 受付時間 / 8:30~11:30、13:00~16:30
※初めての方は待ち時間解消のため、お電話でご予約ください。
- ・ 診療時間 / 9:00~12:00、13:00~17:00
※ストレスケア外来・ストレスカウンセリングは、ご予約の上ご来院ください。
- ・ 休 診 日 / 土・日・祝日
※再来急患の場合は、その限りではありません。

● 診療費のお取扱いについて

[窓口でのお取扱い時間]

- ・ 平日 / 9:00~17:00
※土・日・祝日のお取扱いはしていません。

[口座振替]

ご指定の口座より自動振替による、入院費・日用品代のお支払いができるサービスを行っております。定期的に来院するのが大変な方、遠方からお越しの方等、大変便利なサービスとなっておりますので、ぜひご利用ください。

[クレジット・クイックペイ]

入院費・外来診療料・カウンセリング料のお支払いが可能です。一括払いのみとなります。分割払い・リボ払いはお取扱いしていません。



再来予約専用	電話予約受付時間 (平日のみ)
TEL.090-1779-5326	8:30~12:00
TEL.096-383-7810	13:00~17:00

● 保険証の確認について

- ・ 外来 / 診察毎時 ・ 入院 / 月1回
※窓口での提示をお願いします。

● お問い合わせについて

- 初めての方 TEL.096-384-3111
- 一般外来 TEL.096-383-7810
(診察予約・変更・キャンセル) TEL.090-1779-5326
- ストレスケア外来・カウンセリング TEL.096-383-4679
(診察予約・変更・キャンセル)
- デイケアに関すること TEL.096-384-3151

<医療機関・地域包括支援センター・介護施設のご担当者様へ>
各種お問合せは地域連携室で対応させていただきます。

基本理念

ニキハーティースピタルは、患者様の心を癒し、社会で安心して生活が出来るように手助けをします。患者様、ご家族、地域の方々に寄り添った、家庭的で心の通った医療とサービスを提供します。



ニキハーティースピタル
NIKI HEARTY HOSPITAL

[精神科・神経科・神経内科]
医療法人仁木会
ニキハーティースピタル

ニキハーティースピタルは
ロアッソ熊本を応援しています。



〒862-0920 熊本市東区月出4丁目6-100 TEL.096-384-3111

特集

時代の移り変わり

— 当院の今昔とこれから

当院は開設して100余年経ちます。そして「平成」という一つの時代が終わりを迎えるようとしています。連日のように世情や流行を振り返る特集が流れ、当時のことが思い返されると同時に、時の流れの速さに少し戸惑いを感じてしまいます。

バブルの崩壊とその後の長引く不況、度重なる自然災害、衝撃的な事件や事故、その他多くの社会問題など、色々な課題を背負うことになった時代だったのではないのでしょうか。時代の移り変わりとともにニーズは多様化し、精神科医療機関は時の流れに合わせて変化することが求められてきました。この時代の節目に当院の歴史を振り返り、それぞれの職種から新たな時代に抱負や取り組みについて述べたいと思います。



仁木病院からニキハーティーホスピタルへ

私は昭和56年3月入職し、勤続38年になります。入職後医師会准看護学校、高等看護学校へ通いながら計4年間仕事と学業を両立していました。入職当時は建物は現在とは違って、本館は現在駐車場となっている西側の桜の木が3本植えてある場所でした。その道路沿いに平行して事務所、職員休憩室などがあり、その北側に栄養室が配置されていました。病棟(1, 2, 3, 5病棟)は中庭を囲むように建てられました。以前の病棟は木造



作りで床も板張りでした。スタッフ総勢で100名程いたと記憶しています。当時はまだ作業療法士や精神保健福祉士、臨床心理士はいません。主な患者様の年間行事は看護職が中心となり取り組んでいました。現在の建物は昭和58年に着工されました。斬新な建物でそれまでと違ったすばらしい環境に

なっていました。管理棟は薬室前に事務受付があり、その並びに診察室、外来、レントゲン室もありましたが、その後も増改築がなされて現在はそれぞれの部署が独立して活動ができるようになり、作業療法室、心理棟、地域連携室がもうけられ、それぞれの専門性がより発揮できるようになりました。

200名の患者様を24時間見守っていく看護職ですが、振り返れば様々な出来事がありました。心に残っていることは、ある日の夕方近くの小学校の倉庫のボヤがあり、その時に開放病棟の患者様数名と看護スタッフがバケツリレーで消火作業にあたったことです。しばらくして消防車がきて鎮火しけが人もでず軽微な被害に止まり胸を撫でおろしたことを覚えています。長年仕事をして来て患者さんと共にいろんな活動やレクリエーションを含め楽しくやって来たことが懐かしく思い出され、また仕事の張り合いにもなっていました。深く感謝の気持ちで一杯です。

文/A病棟 松尾HNS

人間は捨てたもんじゃない、
壊れても、より良い物を作る。



文/理事長 仁木啓介

時は、待つはくれず、とんとん過ぎ去り、過去は更なる過去へと記憶の端に押しやられていく。子どもの頃、あんなに長かった夏休みが、今は、あつという間に終わりを告げ、秋を通り過ぎ、また冬になろうとしている。私はトラウマ治療の中で、次のような比喻を使う。「貴方は、電車に乗っています。車内の椅子にゆっくりと腰掛け、車内の風景はそのままですが、車窓から眺める景色は、街中を通り抜けていくと、いつの間にか建物はまばらになり、次第に緑が増えて、自然の山々が広がって行きます。トンネルを抜けると、そこは一変して、青い海が広がっているかも知れませんが、そのまま、その椅子に座って、窓の外の様子をただ眺めているだけで良いのです。」

自分は、いつものように過ごしているのに、ふと周囲に目をやると、あったはずの建物が無くなり、久しぶりに訪れた建物が小さくなっている。見慣れた木が大きく見え、子どもの頃とは、別の世界で暮らしているのに気が付く。心の中で過ぎ去る時間と、現実の時の流れの間で、自分が辿った道を振り返ると、走馬灯のように時間が巻き戻ってく。

ニキハーティーホスピタルのルーツは、祖父が明治45年に開院した、仁木医院(有床診療所)。祖父は、私が幼児の頃に他界したが、山崎町の電車通りに面していた医院の前で、一緒に写っている写真が1枚あったのを記憶している。祖父は、慶徳饅頭を酒の肴に酒を飲むのが好きだった。その後、父正弘がそこを引き継ぎ、今の月出に病院を開設し現在に至るが、当時は、木造平家で、今の駐車場がある所に病棟が建てられていた。私が、小学校に上がる前、父に付いて病院に良く遊びに行っていた。今は、私の大先輩である先生方が、当直に来られていて、よく遊んで頂いた記憶がある。秋の病院の運動会は楽しく、患者様と一緒に芝のグラウンド走り回り、飴食い競争では患者様が、メリケン粉から飴を取

り口に入れてくれていた。今では、建物も変わり、時とともに病院も時代の流れと共に変化した。時代は、便利になった分、何かを失っていく。熊本は大きな災害に見舞われたが、多くの方々のご支援にて、表向きは乗り越えつつある。心が十分に癒されるのは、まだ時間が掛かるかも知れないが、人間は、捨てたもんじゃない。PTSG:心的外傷後の成長、というものに置き換える力がある。壊れてもより良い物を、ハードもソフトも作ることができる。私は、トラウマを専門にしている関係から、災害支援や、これからの災害に備えるために、全国を駆け巡っている。4代目になる息子達も無事に医師になり、将来のニキハーティーホスピタルを担う為、修行中である。2019年は、年号も変わる。当院も新しい事業が動き出す。

新しい年を迎え、地域に根ざした医療を提供して行きたいと思いますので、これからも宜しくお願い致します。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

新しい年を迎え、地域に根ざした医療を提供して行きたいと思いますので、これからも宜しくお願い致します。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

2018

平成30年3月
熊本県DPAT 2チーム登録



2012

平成24年4月
開設100周年

2010

平成22年8月16日



新外来棟竣工

平成22年9月1日
電子カルテ稼働

2004

平成16年7月1日

病院開設40周年

仁木正弘医師が会長就任、
仁木啓介医師が理事長に就任

2003

平成15年
増改築工事
(デイケア・B病棟・
調理室など)

1993

平成5年4月1日

仁木啓介医師が 院長就任



1982

昭和57年11月
新病棟・本館建築着工

1980

昭和55年5月12日
医療法人認可
仁木正弘理事長就任

1961

昭和36年2月26日
仁木正弘医師が
仁木医院を継承

HISTORY

 1912 - 2018

1912

 明治45年4月15日

仁木神経・精神科医院開設
現在の熊本市中央区山崎町に仁木神経
精神科医院開設(開設者 仁木正巳医師)

平成

昭和

大正

明治

2016

平成28年4月14日

熊本地震被災



同年7月より熊本県DPAT活動

2011

平成23年2月14日

仁木正弘会長 逝去

平成23年9月
太陽光発電システム稼働



2007

平成19年4月1日

「ニキ ハーティー ホスピタル」へ改称



1988

昭和63年10月27日

仁木正弘理事長
精神保健功労者として
厚生大臣より表彰

1983

昭和58年9月16日

新病棟・本館 竣工

1984

昭和59年5月17日
仁木正弘理事長
熊本県知事より精神衛生
功労者として表彰

1964

昭和39年7月1日

仁木病院開設

熊本市東区月出に移転し、
仁木病院開設(80床)

・昭和40年に150床へ増床
・基準給食・基準寝具
・精神衛生法による指定病院



私が入職したのは今から13年前、現在の心理課がある2階に栄養部(現在は栄養課)がありました。食材の納品は階段で行われ、大変だった事を思い出します。平成18年、現在の厨房が新設され、1階へ引っ越し。新施設では衛生的なドライシステムの導入、温冷配膳車に食事を入れる事で温かい物は温かく、冷たい物は冷たいままでの提供が可能になりました。IH調理機器の導入では、ガスとは違い火力の調整が難しく、慣れるまで戸惑いがあったのを覚えています。しかし、震災時はガスの使用は出来ませんでしたが、IH調理機器の使用は出来たため、とても重宝しました。約50年前の仁木病院は昔ながらの木造の建物で、渡り廊下を渡り料理は鍋ごと病棟へ運び、患者様と一緒に配膳していました。変化する時代と共に食事も変化を続けます。患者様個々への対応、衛生管理を重視し、安心安全の、バランス良い食事を提供出来るよう進化し続けたいと思います。

時代と共に食事も変化し続ける

私が入職したのは、平成13年、まだ20代の頃でした。当時は「仁木病院」という名称で、ごちんまりとしたアットホームな思い出があります。現在の名称に変わったのは、平成19年、私は育児休暇中でした。病棟の増築、栄養課、デイケア、心理課の拡大...その節目ごとに病院は大きくなり、一緒に働くスタッフも増えました。薬局も3度引っ越しを経験し、調剤機器もずいぶん進化しました。斬新な理事長ですので、ユニフォームもいち早く白衣から独自のものへ変わりました。そして平成22年、現在の外来診療棟の完成と共に精神科単科の病院では最先端の電子カルテの稼働。病院は大きく変わりましたが、患者様の心に寄り添った家族的で心の通った医療を提供するという理念は、今までもこれからも変わらないように思います。私自身も「自分が患者だったらどうしてほしいか?」との問いを胸に秘め、患者さんが適切な薬物治療を受けられるようサポートすることが大切だと考えています。

これからも変わらない寄り添う心

心のケア相談室は、PTSDやうつ、不安、不登校、発達障害等、ここに関わる問題への心理的援助を行っていく場として、平成18年4月に開設されました。以来、約13年の間に、外来での心理療法やカウンセリングを通して、1,000名近い方々に来談いただけてまいりました。開設以降、スタッフや来談いただく方の顔ぶれは少しずつ変わってきており、ご相談いただく内容も時代背景のなかで変化してきているように感じます。近年は自然災害が増え、熊本も大きな震災に見舞われました。いつ何が起るのか、先の見通しにくい世の中にあって、いかに今この時を大切に、しなやかに生きていくかが問われているように感じます。不安や孤独のなかに沈みこんでいきそうな時には、地域で支え合うことも大切です。病院の歴史からはまだまだ日の浅い当相談室ですが、今後とも、来談いただく方の悩みや苦しみに丁寧に寄り添って参りたいと思います。

今この時を大切に、しなやかに生きる

当院のリハビリテーション課は、平成7年に作業療法士1名、准看護師1名、アシスタント1名で開設いたしました。それから徐々に作業療法士が増え、何度かスタッフが入れ替わり、現在は作業療法士6名で稼働しております。私は当院作業療法士の歴史の4分の1程しか知りませんが、これまでの良い部分は何かを見極め、それを大事にしながら、良くない点、困った点を見直してきたつもりです。今年、平成から新しい年号へと変わりますが、私たちの作業療法も今までのものを見直すばかりでなく、より良いものへと新しい歩を進めなくてはなりません。ニキハーティーホスピタルらしさ、私たちが、何に力を入れていきたいか、若い作業療法士達の意見も取り入れながら作ってきたいものです。患者様のニーズに答えつつも、患者様がより良い自分に近づけるためのリハビリとなるよう、時に愛のこもった厳しさも必要かと思っております。

より良いものへ、進める新しい歩み

「今日も、外に出るね?」朝一番の患者様達からの質問です。今の駐車場は当時、運動場で、Drと一緒に患者様とミニ運動会を楽しんでいました。レクリエーションも看護主体で計画・実践し、患者様と触れ合う時間が多かったものです。当時を知る患者様からは、懐かしむ声をお聞きすることもしばしば。看護基準の変更があり、多くの看護師が必要でした。当初、パートで入職した私も、半年ほどで常勤へと切り替えました。27年経過した現在では、ハード面もソフト面も大きく変わり、看護師のさらなる専門性が求められます。患者様の層も幅広く、個別性に応じた看護が肝要です。患者様に寄り添い、安心を提供し、治療に専念していただける環境づくりに努めています。大きな転換期を迎えている平成も、終わりを告げようとしています。しかし、いつの時代も看護の基本は変わりません。次の時代にさらなる希望を持ちつつ、「人を見る看護」の質向上に努めていきたいと思っています。

いつの時代も変わらない看護の基本

歩み、そしてこれから

新時代への抱負

メンタルヘルスに関するニーズは多種多様化し、精神科医療機関に向けられる期待は大きく、それに比例して責任重大と痛感しています。相談支援業務に携わるものとして、真摯かつ誠実な対応を一層心がけたいと思います。地域のみなさまと信頼関係に基づいた地域包括ケアを担いたいと考えており、新規事業としてアウトリーチ機能の拡充、相談支援体制の強化を図るべく目下準備中です。

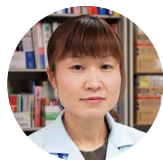
植木 優美子

栄養課長/管理栄養士



村上 陽子

薬務課長/薬剤師



大石 真吾

心理課長/臨床心理士



森 裕子

リハビリテーション課長/
作業療法士



後藤 郁美

看護部長



片山 淳一

地域連携部長/
精神保健福祉士



かんたんレシピ

さっぱりスパイシー
[鶏肉のカレー南蛮漬け]



材料(2人分)

- | | | |
|-----------------|---|---------------|
| 鶏胸肉……………1枚 | A | 酢……………大さじ2 |
| 塩・こしょう……………少々 | | 砂糖……………大さじ1 |
| 卸しにんにく……………小さじ1 | | 薄口醤油……………大さじ2 |
| 小麦粉……………適量 | | カレー粉……………大さじ1 |
| 油……………揚げ物用 | | 唐辛子……………1/2本 |
| 玉葱……………1/2個 | | |
| 人参……………1/4本 | | |
| ピーマン……………1/2個 | | |

作り方

- ①玉葱、人参、ピーマンを千切りにします。
- ②Aを混ぜ合わせ、①を漬けます。
- ③鶏肉を一口大のそぎ切りにし、塩コショウ・卸しにんにくで下味をつけます。
- ④③に小麦粉をまぶし、油で揚げます。
- ⑤揚げた鶏肉を②に漬け、出来上がり。

POINT いつもの鶏むねの南蛮漬けにカレー粉をプラスしてさらに食欲増進♪
鶏胸肉はかたくなりやすいので、水30cc、塩3g、砂糖3gといっしょにビニール袋に1時間漬けておくと柔らかく仕上がりますよ！

編集後記

表紙のカットは、就職合同説明会で撮影したものです。“新たな時代に新たな人材を”を目標に、医療の道に進むことをお考えの多くの方とお話しさせていただきました。新規事業開始に向けて幅広く人材を募集していきますのでよろしくお願い申し上げます。

部門紹介 栄養管理課

BUMON

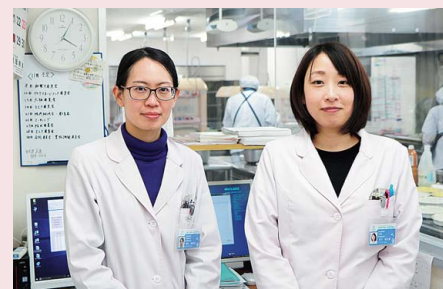
INTRODUCTION

安心、安全の食事を 患者様へ提供する事が第一

患者様一人ひとりに合わせた食事形態、常食からミキサー食まで分かれており、誤嚥リスクの高い方にはミキサー食のとりみ調整を行っています。また、内科疾患のある患者様には栄養管理を行い、食事の調整を行っています。

患者様の声を身近に聞くことが出来るよう食事摂取量の調査や、年に2回の嗜好調査を行っています。患者様の人気のメニューを把握し、日々の献立作成に反映、リクエストにお答え出来るよう栄養課内でミーティングを行っています。

患者様にとって食事の時間を楽しみにしてもらえよう、栄養課一同これからも邁進いたします。



こんなことがありました
できごと

ニキ ハーティーホスピタル 秋祭り 2018

例年通り、平成30年10月14日秋祭りを開催いたしました。本年も山内要さんに司会・ショーをお願いし、お陰様で大変盛況でした。今回は「体験・参加」のイベントとして、体力測定や、作業療法の体験、握力大会・みかんのつかみ取りなど、新たな試みを行いました。自治会・民生委員等地域の方々にもご参加いただきました。皆様深く御礼申し上げます。



地域の皆さまと繋がり、そして新しい時代へ。

第1回 東区精神保健福祉交流会

東区内の精神科医療機関、一般病院、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、相談支援事業所等の方々との交流会が開催され、当院の機能と連携について発表いたしました。地域の医療・介護・福祉に関するさまざまな意見が交換され、大変意義あるものとなりました。今後一層連携のため微力を尽くす所存です。



災害用 衛星電話導入

大規模災害を想定して、病院自体の非常用連絡システムとDPATなど外部ヘチームを派遣する際の連絡手段の確保のため、衛星電話を導入いたしました。

